

2024 10/22

No.2221

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



第50回衆院選が15日公示され、27日の投開票まで12日間の短期決戦の選挙戦が始まった。県内20小選挙区には過去最多タイの85人が立候補。政治改革や経済対策などを争点に舌戦が繰り広げられている(写真の一部を加工しています)。



視点点描	3
問われる防災の本気度	
特集	4
ハリス、トランプ 五分五分の戦い どうなる対日外交 両方への備えを	
経済双眼鏡	8
相次ぐ独禁法違反 望む一段の厳罰化	
政治双眼鏡	9
劇的逆転もさえない戦い 速攻の解散・総選挙は吉と出るか	
よんななエコノミー	10
観光ビジネスのプレイヤーの変化	
蝶花楼桃花のNEWS管休め	11
4爺から5爺へ!	
くらし2024	12
「脳の多様性」活用 障害者雇用で企業 IT・DXで戦力に	
神奈川景気データファイル	14

事務局だより

◇2024年10月定例講演会
10月30日(水)午後1時30分
～3時
メルヴェーユ(桜木町駅近く)
講師:慶應義塾大教授
渡辺 靖氏
演題:「米大統領選の行方～混
迷深まる超大国はどこへ」

◇2024年11月定例講演会
11月20日(水)午後1時30分
～3時
ロイヤルホールヨコハマ
(山下町)
講師:ジャーナリスト
鮫島 浩氏
演題:「激動の秋から来年夏へ
政治の激動は続く」

◇2024年12月定例講演会
=シンポジウム・交流会
12月16日(月)午前11時～午後
1時30分
メルヴェーユ(桜木町駅近く)
講師:共同通信社政治・経済・
外信部長(予定)
演題:「2025年の動向を読む」

【お知らせ】神奈川政経懇話会では、会報「政経かながわ」に会員企業の新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局 ☎045 (226) 2121。

視点 点描



問われる防災の本気度

が求められてきた。

冷暖房設備の付いた大型テントを活用するイタリアや台湾などと比べ、対応が遅れているとも指摘されている。

石破氏の発言は、そうした避難所の在りように一石を投じるものだが、本気で解決を目指すのであれば、これまで改善が進まなかった理由も検証すべきだろう。

避難所の供与は、災害救助法に基づく公助の一つだ。同法では、費用の限度額や救助の実施期間などを規定。原則として学校や公民館、福祉センターなどの公共施設を避難所に指定するよう促す一方、避難の長期化が見込まれる場合は旅館やホテルを借り上げることも可能としている。

しかし、実際の災害対応では、学校施設が使われるケースがほとんどだ。段ボール製のベッドや間仕切りが導入されるなど、一定の

対策は講じられてきたが、根本的な解決には至っていない。「体育館で雑魚寝」を解消するには、そもそも避難所となる施設やスペースの確保策を見直す必要がある。

民間の協力も欠かせないが、そうした抜本的な手だてが石破氏の掲げる「防災省」の設置で実現しやすくなるかどうかは不透明だ。

元日の能登半島地震では初動対応の遅れが問題になった。なお復興途上の9月、石川県輪島市を中心とした地域が記録的な豪雨に見舞われ、仮設住宅などが浸水被害を受けた。

「災害大国」の日本で、過去の教訓が生かされているとは言いがたい現実がある。被災地では人口減が加速し、地域の存立すら危ぶまれる。「防災」に向き合う本気度が問われている。

(神奈川新聞社報道部長・

渡辺 渉)

「能登半島、はつきり言って、101年前の関東大震災と変わらない。体育館で雑魚寝。そのようなことは先進国で日本だけだ」

9月12日、自民党総裁選の所見発表演説会。候補者の一人だった石破氏が強い口調で問い掛けた。「家が壊れ、職を失った人たち、なんで体育館で雑魚寝をしなきゃいかんのですか」

取り上げたのは、災害時に小中学校などに開設される避難所のことだ。プライバシーの確保や着替え、授乳ができず、トイレや入浴もままならない。そうした劣悪な環境が被災者間のトラブルや性犯罪の温床になっていると問題視され、避難中に持病の悪化などで命を落とす「災害関連死」を招いているとして、防災関係者から改善